

令和元年度 国際科学オリンピック

JST支援 7教科に代表生徒が参加

JST(濱口道成理事長)

は、同機構が支援する国際科学オリンピックの今年度結果をあわせて発表する記者説明会を8月22日、東京大学伊藤国際学術研究センター(東京都文京区本郷)において開催した。

同説明会には今年度開催された国際科学オリンピックに参加した6教科(数学、化学、生物学、物理、情報、地理、地学)および、これから参加する地学の代表生徒が出席し、感想や抱負を述べた。記者説明会には、国際科学オリンピックの代表選手として坂本平蔵さん(数学)筑波大学附属高等学校3年)、末松万由さん(化学)栄光学園高等学校2年)、星野敬太さん(生物学)栄光学園高等学校2年)、千葉遼太郎さん(物理)筑波大学附属駒場高等学校3年)、米田優峻さん(情報)筑波大学附属駒場



国際科学オリンピックの代表生徒

国際数学オリンピック(7月11日〜22日)にイギリスで開催、国別順位13位、金メダル2、銅メダル2を獲得

国際化学オリンピック(7月21日〜30日)にフランスで開催、国別順位5位、金メダル2、銀メダル2を獲得

国際生物学オリンピック(7月14日〜20日)にハンガリーで開催、国別順位15位、銀メダル2、銅メダル2を獲得

国際物理オリンピック(7月6日〜15日)にイスラエルで開催、国別順位10位、金メダル1、銀メダル4を獲得

国際情報オリンピック(8月4日〜11日)にアゼルバイジャンで開催、国別順位7位、金メダル1、銀メダル3を獲得

国際地理オリンピック(7月30日〜8月5日)に中国で開催、国別順位27位、銅メダル1を獲得

国際地学オリンピック(8月26日〜9月3日)に韓国で開催

代表生徒のコメント要約は次の通り。

坂本さん：代表選抜で幾何をかき勉強した。その結果、国際大会では幾何が2問出て、どちらも解けたので、あの時の悔しい思いが良い経験になったのではないかと思います。逆に幾何以外が得意な人は不利だった出題だったと思う。国際大会では、イギリスは過ごしやすいところも良いところ

未松さん：国際大会は10日の日程で試験は2日間だけ、そのほかは観光と交流だったので、全く別の場所から来た生徒と交流できてとても楽しかった。国際交流の楽しさがわかったので今後は世界に進出して、世界全体に貢献できるように研究ができればいいなと思う。同じように化学が好きкина後輩には、自分の好きな分野があるならば、その分野をとことんやって欲しいと思う。受験勉強も忙しいかもしれないが、高校生にしかできない経験をして欲しい。

星野さん：国際大会までの道のりは、中学三年生の時に、予選を通ったのが始まりで、そのときに広島大学を研究室見学で訪れ、生物学についていいなど、本格的に勉強をはじめた。次の年に代表選抜で選ばれ、自信につながったと思う。国際大会では、試験の間、冷静さを保つようがんばったが、ミスをして不甲斐なさを感じ、同時に世界の強さを知った。また英語も他の国は流暢で、日本は遅れていると感じた。後輩へは、生物学は良いよ、ということと、行く前に将来の夢を決めておいた方が良いと勧めたい。大会終了後は、勉強へのモチベーションが下がる、将来の夢があると立ち直れると思う。

千葉さん：国際大会に出場したことがある同級生から食事がおいしくないことがあると聞いて、食事は一番の懸念事項だったが、会場に着くやいなや地中海風のリゾートホテルに通され、とてもおいしい昼食をご馳走になり、とても楽しかった。後輩に対しては、英語によるコミュニケーションに心配があったが、すぐにアメリカの生徒と交流をもち、ゲームで遊べたので、英語はあまり問題にならないのではないかと思います。大事なことを実感し、日本人の英語はまだ遅れていると感じた。国際大会では、色々な国の個性の人と会うことができ、様々な意見を聞くことができ、よい経験になった。後輩には、ぜひ地理オリンピックに挑戦して、視野を広げて欲しいと思う。

飯田さん：フィールドワークは現地調査と地図製作、地域展望を記述するものだが、初めての経験だったこともありあまり実力を発揮できなかった。しかし、代表に選ばれた様々な研修は、フィールドワークの面白さを感じ、地理の新たな一面を知ることができた。国際大会では、出題は全て英語なので、英語力が重要であることを実感し、日本人の英語はまだ遅れていると感じた。国際大会では、色々な国の個性の人と会うことができ、様々な意見を聞くことができ、よい経験になった。後輩には、ぜひ地理オリンピックに挑戦して、視野を広げて欲しいと思う。

大野さん：代表選抜までに参加者全員と交流できたのはすばらしいと感じた。フィールドワークも講義も、学校ではできないような勉強をすることができた。国際大会では、他の国の生徒とフィールドワークや調べ物をするような時間が設けられていて、そのときに英語力やコミュニケーション能力が問われるのがんばりたい。他の国の友達がつくれれば良いと思っっている。後輩には、私たちが住む地球に興味をもって欲しい。科学の原理は、地学にあるといっても良いと思っっていて、一方で地学は大学受験でも選択する人が異常に少なく悲しい状況。地学は地面から海、宇宙までを網羅する非常に興味深く面白いものなので、ぜひ視野に入れて欲しいと思う。

米田さん：国際大会に向けて、学校が終わってから8〜9時間、試験の練習をする生活だったので、終了後は努力が報われてよかったという気持ちになった。後輩へは、まず、プレッシャーに負けずに競技に集中することが大事。国際大会の試験は、巨大なホールで行われ、プレッシャーを感じないことは難しいかもしれないが、競技は1秒1秒を大事にしないと負けてしまうため、メンタルが重要になってくる。また最後の1秒まで諦めないことが重要だと思っ。